



## 報告 ラムサール条約 COP13 (UAE・ドバイ)

「湿地、持続的な都市の未来のために」という主題で、2018年10月21日(日)〜29日(月)、ラムサール条約第13回締約国会議(COP13)が開かれました。締約国170か国のうち143か国の代表を含む1360人以上の参加者が、アラブ首長国連邦(UAE)ドバイのドバイ・フェスティバルアリーナに集まりました。中東の砂漠の、オイルマネーで作られた街で湿地の会議とは、という思いもありました。街中では街路樹への給水パイプや運河など砂漠の都市であることを忘れるほです。一方、街の外に出ると澗れ川(ワデイ)の水路が切り立つ100mの岸の底にあり、水の浸食が続いていて、そこは生きものたちの生息地となっています。現地に来て改めて主題とのつながりが見えてきます。

このCOPは、一つの節目の会議でした。条約締結50周年となるCOP14を前に、第4次戦略計画(2016〜2024年)採択後初のCOP。国連生物多様性の10年と愛知目標最後のCOP。国連持続可能開発目標SDGs開始後初のCOP。条約発足後初の中東でのCOP。事務局長を含む多くの新しい事務局員にとって最初のCOPでした。日本と韓国の政府・NGOにとつては水田に関する決議



本会議(上)と登録認定証授与式(左)の様子。今回のCOPに合わせて、志津川湾、葛西海浜公園のラムサール条約湿地登録と円山川下流域・周辺水田の登録区域拡張が認定された。

X・31採択10年の節目でした。

運営に関する議題は、条約運営の効率化に関する対立する決議案が提出され、制度疲労が浮き彫りにされました。議論の結果、6つの作業部会などが廃止される一方、効率化作業部会が新設され制度改革はこの部会で次回に向け議論されることになりました。一方、条約の実施に関する決議案の多くがs、愛知目標、気候変動を引用し、発言でも国連・多国間環境条約ほか世界的な問題に協力して取り組む姿勢が示されました。潮間帯湿地保全・ウミガメ生息地保全・湿地と農業などを含む最終決議が、言葉だけでなく、確実に実施されることが必要です。そのためには、政府だけでなく、自治体、地域住民、市民団体、NGO/NPOの協力が欠かせません。

(柏木 実)



プレCOP NGO ミーティングでの記念撮影。中央にあるのがWWN10周年のバースデーケーキ。

### ●プレCOP NGO ミーティング

湿地を守るNGOが作る世界的なネットワークである世界湿地ネットワーク(WWN)の主催、ラムネットJの共催による「プレCOP NGO ミーティング」が、10月22日にドバイ市内のアドミラルプラザホテルで開催されました。最初にWWN代表のルイーズ・ダフさんからWWNについての説明がありました。続いて3月まで条約のアジア・オセアニア席担当官だったルー・ヤンさん(東アジア・オーストラリア地域フライウェイ・パートナーシップ事務局長)から、NGOのCOPへの取り組み方について、決議案や国別報告書に目を通し、政府とNGOの認識の差についてCOPで指摘するようにアドバイスをいただきました。

今回は通常の会議と違って、参加者同士の交流のためのアクティビティを入れました。まず最初の

アクティビティとして、参加者51名の間での自己紹介セッションを設け、多くの人と交流できるようにしました。次のアクティビティは自国のラムサール条約湿地の状態について、「良い状態にある」と思う人は部屋の前を集まり、「悪い状態にある」と思う人は部屋の後ろに集まるというものでした。自国の条約湿地の保全の状況についてどの国や立場の人がどのよう認識しているか見ることができました。

続いて、全体会議で発表されるNGOステートメント(声明)について、参加者の間で意見を出し合って検討しました。そのあとUAEのジャッキー・ジュダスさんが「中東の湿地とNGO活動について」と題し、UAEの自然のことや環境NGOの活動などについて説明しました。

WWNは2008年に韓国でのCOPの際に結成されたネットワークです。あれからちょうど10年になります。10歳になったWWNをお祝いするバースデーケーキを用意して、みんなで食べました。これからも湿地を守る活動を一緒に進めていく仲間の人たちと良い交流ができました。(安部真理子)

### ●サイドイベント

#### 「水田決議 10年」

このサイドイベントは日本環境省、韓国環境部が主催し、慶尚南道ラムサール環境財団(GREF)、



الجمعية العالمية للأراضي الرطبة  
Ramsar Convention  
The World Wetlands Convention



サイドイベント「水田決議これからの10年」

日本農林水産省、ラムネットJの共催で開催されました。今回のサイドイベントの目的は、ラムサール条約COP10で採択された水田決議から10年が経ったことを受け、田んぼの生物多様性向上をめざす取り組みの進展と課題を見直し、特に水田と密接な関係を持つアジア、アフリカ、中南米などの地域に水田の重要性をアピールし、持続可能な未来の都市部、気候変動、貧困、食糧安全保障を含め、SDGsや愛知目標などの新しいグローバルな目標を組み込んだ、今後10年間の行動を提起し議論することでした。

環境省の堀上勝さんの開会挨拶のあと、環境省の市川智子さんより趣旨説明があり、続いて日本と韓国における水田決議の実施の経過と課題について、ラムネットJの呉地正行さんと韓国環境部のイー・ジョンファンさんが説明しました。また、GREFのイー・ヨ

●**サイドイベント「水の自然な流れ」**  
10月26日にラムネットJ、韓国湿地NGOネットワーク、WWNの主催によるサイドイベント「水の自然な流れ―決議とガイドラインは活かされているか？」が開かれました。50人ほどの会場でしたが、ほぼ埋まったように見える状態です。日本と韓国の関係者が多かったものの、東アジア系以外の方もけっこういて、このテーマの普

通性をうかがわれました。最初はラムネットJの陣内隆之さんからの趣旨説明と日本の状況に関する報告で、問題の多い現状をアピールしました。次は韓国のキム・キョン Cholさんの報告「四大河川事業」で、壊滅的な状況となった川の様子と、政権が変わって修復が進み、改善されつつある現状が報告されました。特に当日朝にプサン市長から「ナクトンガン(洛東江)を来年ラムサール登録する」という表明があったことに言及し、今後への期待を持たせてくれました。韓国からの2本目はファソン市副市長のファン・ソテさんによるファンソテの報告とビデオの上映で、かつてのセマングムを想起させるような映像に見とれるばかり。

最後はイギリス西部の川の環境再生の事例報告で、水鳥湿地トラスト(WWT)のジェームズ・ロビンソン氏。計画的な管理のもと



サイドイベント「水の自然な流れ」

で湿地を再生した好事例に、いくつかの質問が寄せられました。サイドイベントはそれをやったからすぐに何かが大きく動くというものではないかもしれませんが、やはりこのような機会を通しての情報発信・交流は重要であることを実感しました。特に韓国ナクトンガンの明るいニュースには元気づけられました。長良川も早く流れを取り戻せるよう行動を続けたいと改めて思いました。(亀井浩次)

●**展示ブースでの活動**  
ラムネットJでは、これまでのCOP同様、会期中ブースを設けポスターや配布物などで活動の紹介を行いました。10月23日の朝から設置し、田んぼ10年プロジェクトや湿地のグリーンウェイブの展示物、各地から寄せられた湿地紹介ポスターなどを重ならんばかりに貼り、おなじみ(株)アレフさんの「ふゆみずタンゴ」を小型モニターで再生するなど、にぎやかなブースになりました。

通る人に立ち止まっていたために、和紙の折り紙などを用意して、一緒に折りながら楽しんでいただき、ラムネットJの活動をお話ししたり、サイドイベントのチラシを配ってお誘いするなどしました。実は日本からのブースも多く出展されていて、しかもどこも折り鶴をしていたようです。そのうち、ツルはいいからカエルを教えてくださいというリクエストの方が



ラムネットJのブースと折り紙

増え、湿地の会議だけにやはりカエルだろうとジャンピングフロップの折り方を覚えていったのが役に立ちました(笑)。

他所のブースの多くは、ポスターやパネル、中には大き目サイズの液晶モニターで活動紹介などをしているところもありましたが、私が心引かれたのは、イラクの湿地再生センターのブースに並べられていた草を丁寧に編んだ小物たち。イラクの女性たちが作っているというそれらの小物は日本の民具にも似て、自分たちも湿地の恵みを大いに活かしたいという思いが膨らみました。

ちなみに、ブースのある場所のすぐ外には水辺があり、そこでアオサギ、クロサギ、チュウサギ、コサギ、アオアシシギやケリの仲間など、日本でおなじみの鳥からめったに見られない鳥まで楽しむことができました。(上野山雅子)



# 穴塚の里山 (茨城県)

穴塚の自然と歴史の会 佐々木哲美

JR土浦駅・つくばTXつくば駅から、いずれも約4kmにある「穴塚の里山」は、東京駅から50km、土浦市穴塚側が100ha、つくば市側が約80haの里山です。環境省「生物多様性保全上重要な里地里山」に選定され、中央にある穴塚大池は、広さ約3・3haの溜め池で、「ため池百選」(農林水産省)にも選定されています。この里山は雑木林・谷津・田や畑・草原・湿原、昔ながらの小川や湧水など、多様な自然環境によって構成されています。多様な環境要素が幾多の生き物を育む場となり、レッドデータブックに掲載されている数多くの種が確認でき、この里山の重要性の根拠の一つとなっています。

また、里山は人の暮らしと共に利用されてきた場所であり、大池を囲むように旧石器時代から近代までの遺跡、遺構が高密度に散在し、池の北側には穴塚古墳群、南西側には国指定遺跡で



穴塚大池



田植えをする田んぼの学校の子どもたち



穴塚米オーナー制と自然農田んぼ塾で維持された谷津田

ある上高津貝塚が存在します。まさに自然環境、歴史的な環境に恵まれた里山となっています。

ここに魅せられた近隣住民は穴塚の自然と歴史の会を1989年に発足させ、保全活動を30年間継続してきました。「穴塚の里山」全体としての保全・利活用を主眼とし、自然環境調査、地元住民からの聞き書き調査、雑木林、草原、竹林、湿地、小川の保全、畑での耕作、谷津田農家の耕作支援、自然農田んぼ塾による有機水田耕作の実践などの活動を行っています。また、テーマ別観察会、毎週の観察会、探鳥会、田んぼの学校の開設、学習会などの環境教育活動も進めています。さらに、会報の発行、土浦市、つくば市の小学校への案内配布、シンポジウム開催などの普及活動も実施しています。その結果、各方面から褒章を受けるなど社会的評価を得て、市民の関心も高まっています。地元自治体は、現時点では、この地域の将来を市街地開発と保全の両論併記の形としています。我々は、この緑豊かな自然環境を保全するために、ここで展開されている活動を活かした将来設計をするように働きかけをしています。

## 中津干潟の保全に向けた活動の近況とアカニシ染め

水辺に遊ぶ会理事長 足利由紀子



アカニシ

11月に入り中津干潟では、ハマシギの数がどんどん増え、ズグロカモメやクロツラヘラサギなどの鳥たちも渡ってきました。また、数千羽のヨシガモの群れも今年も健在です。

●近況その1 中津干潟を望む小さな漁港の一角に活動拠点として「小さな干潟の博物館」ひがたらほ」を開設しました。ネコの額ほどのプレハブ小屋ですが、拠点ができたことで、地域の方々や漁師さん、子どもたちや大学生、行政の方などが日々遊びに来てくださり、環境学習や情報発信、交流の場になりました。

●近況その2 中津干潟で研究を行っている若手研究者や大学生の情報交換、市民と研究者の交流、干潟研究の発展を目的に、緩やかなネットワーク「中津干潟アカデミア」を立ち上げました。3月に第1回の研究発表会、夏には研究者や大学生による子ども向けワークショップなども開催、12月23日には第2回研究報告会を実施する予定です。自然科学や生物、地域の自然に興味を持つ子どもや若い人材が育つよう、期待を込めて活動しています。

●近況その3 この夏、新しい試みとして「アカニシ染め」に取り組みしました。干潟でおなじみの巻貝のアカニシは、中津では漁師さんが漁獲して流通にのっている食材です。とてもおいしい貝です。この貝から染

料が取れることを知り、挑戦したいとかねてより思っていました。大分大学の被服の先生のご協力で実現しました。アカニシなどのアッキガイ科の貝で染めれば、世界で最も高貴な色としてシーザーのマントやクレオパトラの船の帆などにも使われていたといわれています。硬い殻を割り、内臓の一部「鰓下腺」を取り出して水と一緒にミキシングしたら布を浸し、太陽の元に変化し、次に紫色へと変わります。この色の変化が不思議で興味深いのですが、色が変わる時に臭素が放出されるため、ものすごく臭いのが難点。もちろん染料を取った後のアカニシはおいしくいただけます。

●近況その3 この夏、新しい試みとして「アカニシ染め」に取り組みしました。干潟でおなじみの巻貝のアカニシは、中津では漁師さんが漁獲して流通にのっている食材です。とてもおいしい貝です。この貝から染

料が取れることを知り、挑戦したいとかねてより思っていました。大分大学の被服の先生のご協力で実現しました。アカニシなどのアッキガイ科の貝で染めれば、世界で最も高貴な色としてシーザーのマントやクレオパトラの船の帆などにも使われていたといわれています。硬い殻を割り、内臓の一部「鰓下腺」を取り出して水と一緒にミキシングしたら布を浸し、太陽の元に変化し、次に紫色へと変わります。この色の変化が不思議で興味深いのですが、色が変わる時に臭素が放出されるため、ものすごく臭いのが難点。もちろん染料を取った後のアカニシはおいしくいただけます。

●近況その3 この夏、新しい試みとして「アカニシ染め」に取り組みしました。干潟でおなじみの巻貝のアカニシは、中津では漁師さんが漁獲して流通にのっている食材です。とてもおいしい貝です。この貝から染



子どもたちもアカニシ染めを体験

## 食べる人から田んぼが見えるように 「生きもの元気米」のご案内

「生きもの元気米」は河北潟湖沼研究所が河北潟周辺の農家と取り組んでいる水辺・田んぼの生物多様性を保全するお米です。都市部でお米を買って食べる人が、田んぼの環境やそこにすむ生きものまで意識する機会はありません。生きもの元気米は、田んぼ一枚ごとにお米を管理し、米袋にお米が栽培された田んぼ一枚ごとの情報、農家や田んぼの場所、栽培方法に加え、生きものの写真や情報を掲載しています。2018年の新米販売開始しましたので、ぜひ食べて応援してください。購入方法など詳しくは、生きもの元気米のホームページをご覧ください。<http://kahokugata.sakura.ne.jp/ikimonogenkimai/>（または「生きもの元気米」で検索してください）



が發覚してから5年近く、狭山丘陵の谷頭部であり、蜚の生息する貴重な湿地の水源地である当該計画地の開発をなんとか止めてもらいたい、とさまざまな取り組みを進めてきました。反対署名や計画地を買い取るためのトラスト基金を呼びかけました。市に提出され



狭山丘陵・葛籠入湿地（上）とこの地域に生息するヘイケボタル（右）

昨年3月に、ご報告させていただいた、東京・埼玉にまたがる、狭山丘陵の墓地開発問題のその後のご報告です。ラムネットJの陣内隆之さんに湿地保全の重要性のお話をいただいていたから2年。墓地開発業者がついに計画を諦め、所沢市の公有地化に協力する、と申し出ました。そして、この2018年9月の所沢市議会で本件土地の公有地化のための1億3500万円の補正予算案が可決されました。

2013年12月にこの墓地問題が發覚してから5年近く、狭山丘陵の谷頭部であり、蜚の生息する貴重な湿地の水源地である当該計画地の開発をなんとか止めてもらいたい、とさまざまな取り組みを進めてきました。反対署名や計画地を買い取るためのトラスト基金を呼びかけました。市に提出され

## 狭山丘陵の墓地開発計画が中止に！

トトロのふるさと基金事務局長 北浦恵美

## ラムサールCOP13のための特別協賛金 ご協力ありがとうございました

下記の皆さまをはじめ、多数の方からご協力をいただき、総額17万円の協賛金が集まりました。このお金はDバイへの渡航費や展示物・印刷物の制作費などに充てさせていただきました。どうもありがとうございました。

\* \* \*  
池田愛美さん／小林重信さん／立花一晃さん／永井光弘さん／はぜっ子倶楽部さん／このほか匿名希望の方々

まった、「葛籠入保全トラスト基金」(615件3779万7452円)については、全額、公有地化を進める所沢市に寄付をし、公有地化のための資金の一部とされることとなりました。

公有地化が実現したあとは、この地の自然回復と保全を、所沢市と協議をしながら進めていくこととしています。現地は計画の途上で樹木が皆伐・抜根され、オオブタクサやニセアカシアが繁茂する荒地地となっています。ここに、狭山丘陵で減少しているアカマツを植え、猛禽類の営巣木となるよう育てたい、昔の植生を回復させ、協力してくれた市民と共に、直下の湿地の環境を守っていききたい、など夢が膨らみます。蜚が舞い、多くの野鳥が訪れ、水浴びや採餌場として利用される豊かな狭山丘陵の湿地環境が失われることのないよう、これからも皆さまの支援をいただきながら取り組みを進めていきます。

## ラムサール・ネットワーク日本 会員募集!!

ラムサール・ネットワーク日本(ラムネットJ)の活動は、会員の皆様からの会費や、カンパ、助成金などでまかっています。ぜひ、ラムネットJのサポーター(一般賛助会員)になって会の活動を支援してください。もっと積極的に湿地保護にかかわりたい方は、会の運営や活動を担う一般正会員としての入会をお待ちしています。そのほか、団体や企業としての入会も可能です。詳しくは事務局までお問い合わせください。

### 会員の特典

機関誌「ラムネットJニュースレター」を送付するほか、会員限定のメーリングリストに参加できます。ラムネットJが主催する催しの参加費が割引になる場合もあります。

### 入会申込方法

●郵便振替 郵便振替用紙(払込取扱票)の通信欄に、ご希望の会員種別、お名前、住所、電話番号、Eメールアドレスをご記入の上、年会費をお振り込みください。一般銀行から振り込む場合は(払込取扱票への記入ができませんので)振り込み後に上記の申込事項をEメール、FAX、郵便等で右記の事務局までお知らせください。

●ウェブサイト 一般賛助会員、一般正会員については、ウェブサイトからオンラインでの入会も可能です。<http://www.ramnet-j.org/join/>にアクセスし、「入会申込フォーム」に記入して送信してください。年会費は郵便振替でご送金いただくか、ペイパルを使ってオンラインで決済することも可能です(クレジットカードも使用できます)。

### 振込先

ゆうちょ銀行 振替口座 00140-0-765702 ラムサール・ネットワーク日本  
(一般銀行から) ゆうちょ銀行 〇一九(ゼロイチキョウ) 店  
当座預金 0765702 ラムサール ネットワークニホン

### 会員種別と入会申込金(年会費)

会員種別	正会員		賛助会員	
	総会での議決権があります		総会での議決権がありません	
一般	1口	5,000円	1口	2,000円
団体	1口	10,000円	1口	10,000円
特別	50,000円以上		30,000円以上	
企業	-		1口	100,000円

### 年会費(入会金)

年会費は毎年4月から翌年3月までの1年分です。入会初年度は、年度途中の入会でも入会金として1年分の会費をいただきます。2~3月に入会の場合、初年度の年会費(入会金)は無料となり、4月からの次年度の年会費としていただきます。

### 事務局

NPO法人 ラムサール・ネットワーク日本  
〒110-0016 東京都台東区台東1-12-11  
青木ビル3F TEL/FAX 03-3834-6566  
Eメール info@ramnet-j.org